



10/6
講演会の様子



▲10/26早川裕子先生

旭神経内科リハビリテーション病院

最近の取り組み

当院では普及啓発として、10月6日に「当院における障害者雇用について」というテーマで講演会を開催しました。当日は当院に勤務している当事者の方や職場の上司、雇用担当者などに話をいただき、参加者全員から高評価をいただきました。また、10月26日に「高次脳機能障害における作業療法の役割」というテーマで、横浜市立脳卒中・神経脊椎センターの早川裕子先生をお招きして講演会を開催しました。事例を通して、行動は脳の働きが身体運動に変換されたものなので、行動と脳をセットにして障害構造を把握することが大事であると教えていただきました。なお、11月8日には当事者を従業員とした「高次脳カフェ」を実施します。

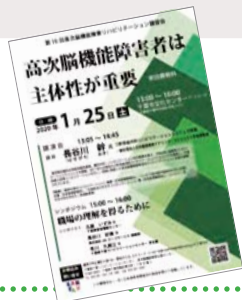
千葉県内には千葉リハの他に、支援拠点機関が2つあります。今号から2つの支援拠点機関の行っている取組みや情報を掲示板のなかで発信して頂きます。

千葉県の支援拠点機関情報

亀田リハビリテーション病院

最近の取り組み

当院では、千葉リハビリテーションセンターと協力し、11月9日(土)に「高次脳機能障害の生活を支えるマネジメント～生活版ジョブコーチの手法を学びながら～」という研修会を安房地区で開催しました。当院作業療法士、千葉リハビリテーションセンターの高次脳機能障害支援センタースタッフが講義しました。安房圏域の障害・介護のケアマネージャーを中心に14名が参加。「高次脳機能障害の特性と対応」、DVD視聴「生活版ジョブコーチ支援の実践」、「高次脳機能障害におけるヘルパー支援の形」、グループワークを実施しました。参加者から「生活版ジョブコーチを知ることができて良かった」「生活自立支援の基本に共通する面もあると感じた」等の声を頂きました。



■第16回高次脳機能障害リハビリテーション講習会

日時:2020年1月25日(土) 13:00-16:00 参加費:無料/定員:250名

①講演『高次脳機能障害者は主体性が重要』13:05-14:45
講師:長谷川 幹氏(三軒茶屋内科リハビリテーションクリニック院長)

②シンポジウム『職場の理解を得るために』15:00-16:00

シンポジスト:古屋いずみ氏(千葉障害者職業センター)

長谷川好美氏((株)JALカーゴサービス総務部)

老川久美江氏(千葉リハ更生園)

問合:千葉県千葉リハビリテーションセンター 高次脳機能障害支援センター

Tel:043-291-1831/Fax:043-291-1847

■台風15号、19号、豪雨の災害を受けられた皆様、心からお見舞い申し上げます。車椅子ユーザーのYとしては豪雨だった10月25日は非常に身の危険を感じました。掲示板37号の災害特集で避難名簿登録、家族と避難所の確認等をしていましたが、外で災害にあった場合を考えていなかったため、余計に不安が募りました。災害を経験して「自分の身は自分で守る」考えも必要だと強く思った日でもありました。令和元年もあとうず。来年は東京にオリンピック・パラリンピックがやります。明るい話題が世の中にあふれるよう願うばかりです。(Y)



▶11/9
生活版ジョブコーチ実務研修会

▲グループワークに
千葉リハスタッフがアドバイザー

亀田リハビリテーション病院

千葉県千葉リハビリテーションセンター 高次脳機能障害支援普及事業広報誌

こへじのう

掲示板



こーちゃん
こーじのう掲示板キャラクター

39
2019.12

こへじのう掲示板は千葉県千葉リハビリテーションセンターや千葉県、全国の高次脳機能障害に関わる情報を紹介する広報誌です

葉の花メッセージ

「ライフステージに応じた支援のために」

千葉リハビリテーションセンター更生園

支援部長 **篠原 正倫**
しのはら まさみち



児童期から成人期まで、さまざまな高次脳機能障害の方、ご家族と関わる中で、ライフステージや症状の違いなどによって、そのニーズは多岐にわたると感じています。児童期は教育や放課後活動のニーズが高く、青年期～成人期になると、職業や社会生活のニーズが高くなります。医療や経済については、普遍的なニーズです。また、入学、卒業、就職、单身生活、結婚、病气、家族構成の変化など、人生の節目にはニーズ量が高まる傾向にあります。

相談窓口や支援機関を利用している方も多いと思いますが、信頼のおける家族以外の支援者を1人つくっておくことは大切です。支援者としてまず考えられるのは、相談支援専門員やケアマネージャーです。行政職員や各福祉サービス事業所の職員も支援者となります。ご本人やご家族と良好な関係を築き、信頼できる支援者は、ご本人のことをよく理解したうえで、学校や職場、市役所や病院などへ同行支援等を行い、必要に応じて地域の支援機関と連携します。一人の支援者が複数の支援者を生み、支援機関をつなぎ、ライフステージの変化に応じた、継続的な支援体制が築かれていきます。

私は現在、更生園(詳細については特集をご覧ください)という障害者支援施設で仕事をしています。更生園では高次脳機能障害の方に、「生活訓練」や「就労移行支援」というサービスをご利用いただいています。ご本人のストレンクス(強み)を生かせるような支援を行い、社会生活力が向上することで、できることが増え、行動範囲が広がり、自立生活につながります。これからも、高次脳機能障害者の支援事業所として、地域とのつながりを大切に、支援やサポートを行っていきます。

information

編集後記

■ようやく長い猛暑が終わりホッとした秋に千葉県では台風15号に始まり19号、そして10月25日の豪雨と、立て続けの災害に見舞われました。千葉県以外にも多くの地域で甚大な影響を受けてしまいました。被害を受けた皆様は心よりお見舞い申し上げます。このような中ですが今回の「掲示板」は千葉リハの障害者支援施設更生園の特集をはじめ、高次脳機能障害支援の情報をお届けします。災害後の落ち着いた日々ではありますが、災害への備えも併せて支援も進めていければ、と願います。<三代目O>

こへじのう
掲示板

2019.12vol. 39

発行日 ■ 2019年12月3日

発行 ■ (社福)千葉県身体障害者福祉事業団 千葉県千葉リハリテーションセンター
千葉市緑区菅田町1-45-2 Tel. 043-291-1831(代) 内198

発行責任者 ■ 高次脳機能障害支援センター センター長 小倉由紀
<http://www.chiba-reha.jp/> ※ホームページからご覧いただけます



身体障害者リハビリテーション研究集会2019in香川

「自立訓練における効果測定の現状と課題」というテーマで発表を行いました。自立訓練事業では、制度として認められたアウトカム評価が無く、既存の評価指標では表せない訓練効果があることが課題となっています。全国身体障害者更生施設長会関東ブロックでは「評価指標検討ワーキング」を立ち上げ、社会リハビリテーションの本質に基づいた評価指標の検討を行っています。

更生園からのお知らせ

更生園では、2020年2月20日13:00~15:30、千葉県リハビリテーションセンター大ホールにて、「ふれあいフェスタ」を開催します。「たくさんの人に知って欲しい!社会リハビリテーション」をテーマに更生園での取り組みを利用者の方が発表します。ぜひご参加ください。



関東甲信越ブロック・東京ブロック合同会議

2019.8.23
さいたま市保健所

この会議には千葉県の担当者と3支援拠点機関の担当者各1名の合計4名が参加しました。会議の前半は「高次脳機能障害者・児の障害福祉サービス等利用に関する調査報告」及び「高次脳機能障害情報・支援センターへの質問への回答」について国リハ深津玲子高次脳機能障害情報・支援センター長の講演が行われました。「調査報告」は平成30年度実施の全国103の高次脳機能障害支援拠点機関を対象としたもので回答率は約50%。当事者のサービス利用困難の理由は「制度」、「事業所」、「本人」、「それらの組合せ」のそれぞれに関するものに分類されていました。支援拠点機関が要望するサービスは76件にものぼり、まだまだ課題が多いことが示されました。後半は参加都県間の情報交換が行われました。内容は介護保険、相談支援、関係機関の連携、ピアサポート活動、研修事業、支援拠点機関設置であり、特に相談支援と介護保険関連が複数提案されました。他県の取り組みの情報を得ることで本県の取り組みに生かすことができる貴重な機会となりました。なお、来年度は山梨県が幹事県ですが、会場は千葉県となり千葉県内での開催となる予定です。

千葉県高次脳機能障害支援ネットワーク連絡協議会

2019.11.19
千葉リハ

千葉県内の高次脳機能障害支援のネットワークづくりを行うために、県と3支援拠点機関、家族会・行政・支援機関・職能団体の代表が一堂に会し情報共有と意見交換を行いました。県担当者からの支援普及事業全体の報告と3支援拠点機関から実績報告が行われました。家族会からの要望・質問事項に関連し、失語症者向け意思疎通支援事業では22名が研修終了し活躍の場を待っていること、4つ目の支援拠点機関設置に向け県が取り組んでいること、医療再編対象として公表された千葉リハは、県が建て替えの準備を進めており総合リハセンターとして今後も期待していること、などが説明されました。その他、参加者からの高次脳機能障害支援の取り組みや提案がなされましたが、中でも「移動」についての議論では就労・社会参加と直結する課題として、県・国レベルでの施策の充実の要望や高次脳機能障害への理解の普及の必要性などが話されました。年々、新たな取り組みの広がりがみられるとともに、課題をどう解決するかを考えることができた会議となりました。



▲11/19 千葉リハにて



カフェ輪駆・ヤングカフェ合同開催

2019.7.20 11:00-14:00 千葉リハ 更生園



参加者31名

ちょっと雑談でもしてみませんか？

元の職場に戻って働いている方、新しい会社でこれまでとは違う仕事に就いた方、学校を卒業して初めて仕事に就いた方。更生園や支援センターの活動を終了して頑張っている方。このような方々を対象とした「カフェ輪駆」と原則40歳以下の方が対象の「ヤングカフェ」を11回目まで合同で開催しました。午前中は「ヤングカフェ」の方は和やかな雰囲気で見ええ交換をし、「カフェ輪駆」の方はポチャで楽しいひとときを過ごしました。その後合同で食事をしながら全員で自己紹介をし、おしゃべりを楽しみました。次回は2019年12月7日の予定です。

第15回高次脳機能障害リハビリテーション千葉懇話会 高次脳機能障害の臨床:社会的行動障害を中心に

2019.9.28 19:00-21:00 千葉市民会館小ホール



参加者155名

第15回の千葉懇話会は京都から村井俊哉氏をお招きして開催しました。土曜の夜の開催でしたが多くの参加者に参加していただきました。初めての参加100人近くの方をはじめ、多くの参加者で埋め尽くされた会場には、他県から足を運んでくださる方もみられました。アンケートの回答率も9割と良く、参加者からの感想から、講演内容の関心の高さを知らされました。ここで一部紹介します。「先生の障害に対する定義が自分の中にすんと落ちる様な感覚でした」「臨床の雰囲気かわかり、患者さんの状態像が理解できました」今回も多数の方にご参加いただき、誠にありがとうございました。

日本高次脳機能障害友の会 第19回全国大会2019in香川

2019.10.18-19 香川県県民ホール他



うどん脳
香川県マスコットキャラクター

「日本高次脳機能障害友の会」の全国大会が香川県で行われました。この会は、2000年4月から「日本脳外傷友の会」としてはじまり、改名して初めての大会でもありました。1日目は高次脳機能障害支援コーディネーター研修会が開かれ、多職種連携の事例検討を行い、アセスメントを深める学びとなりました。2日目は、全国から多くの当事者家族の方が参加され、活気ある大会が行われました。当事者活動奨励賞授賞式から講演などが行われ、シンポジウムでは、本人の思いを大切にしたい支援を聴くこともできました。次回は福島で開催される予定です。

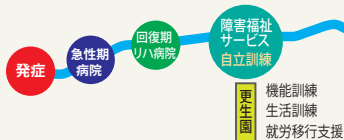
第3回高次脳機能障害就労支援研修会

2019.10.25 13:30-16:30 千葉リハビリテーションセンター



当日は稀に見る豪雨のなか、14名の支援者の方々が参加されました。千葉リハスタッフによる高次脳機能障害の概論・千葉リハの段階的な就労支援の講演の後、ひゅーまにあ千葉中央の伊東様により「就労支援事例と地域連携」をテーマに講演がなされました。伊東様の講演は対象者に丁寧に向き合う支援と地域連携の重要性を認識できるものであり、参加者からも非常に好評を博しました。今回参加できなかった方々からのご要望もあり、同内容で令和2年1月9日(木)に再演が決定しました。関係各所の案内を配布する予定ですので、ご期待ください。

社会参加に向けての道のり



更生園ってどんなところ？



ここがポイント！ 利用者の7～8割が 高次脳機能障害をお持ちの方！

更生園は3つの事業を行っていますが、身体障害を合併している方も含めて利用者の7～8割は高次脳機能障害を有しています。そのため、更生園での支援は高次脳機能障害の特性を理解し利用者の個性に応じた支援を展開しています。その中でも「障害への気づき」を深めることは社会参加の上で最も重要な課題であり、グループワークをはじめとする各種プログラム、個別面談及び24時間の生活といった様々な場面でそのことを意識した支援を提供しています。

ここがポイント！ 入所しながら自立訓練を受けられる！

自立訓練は日中活動が中心ですが、入所しながら訓練等を実施することが効果的であると認められる方は入所して訓練が受けられます。見えない障害といわれる高次脳機能障害は本人も見えにくいのが特徴です。同じ障害をお持ちの方との集団生活の中で交流を通して気づきが深まります。

ここがポイント！ 専門職がいる！

理学療法士と作業療法士が専従で配置され、ともに身体機能訓練、認知リハビリ訓練、日常生活動作訓練、移動自立訓練などを行い、地域移行時には家屋評価・指導や環境整備を行っています。その他、作業療法士は家事動作訓練や就労移行支援にも携わっています。理学療法士と作業療法士に加え、心理師も心理教育のグループ活動や面談などの支援を行い、その中で「障害の気づき」の促進を図っています。

高次脳機能障害の方が新規就労、復職、社会参加を目指す道のりでは、障害福祉サービスの自立訓練事業を利用するのがひとつの方法です。編集部では、更生園でおこなっている自立訓練のプログラムや支援内容、誰でも使える支援ツールの紹介をします。またスタッフに「高次脳機能障害をお持ちの方に、どんなことを意識して支援していますか？」と質問してみました。

障害があってもその人らしく地域で暮し、学び、働くために、自立（自律）することを目指す人に、社会リハビリテーションを柱として、地域生活移行支援・就労移行支援を行います。個別に作成されたプログラムに基づき、リハビリ、看護、福祉、就労、パソコン、学習等の様々な専門スタッフがチームを組んで支援します。また、高次脳機能障害のある方に特化した支援も行っています。さらに、短期入所により地域生活をえます。

利用者に対等な関係であることを常に意識して対応しています

利用者は発症前、受傷前の社会経験がある方が多いので、プライドを傷つけないように配慮しています。どんな障害であっても一人一人を尊重して接することを心がけています。高次脳機能障害のある方にはわかりやすいように文面で書き、文章も丁寧に相手の心を傷つけないよう気を配っています。



北田生活援助員

更生園非公認キャラクター
“ミスター・K”

■プログラムを運営するにあたって苦労していることはありますか？
障害が重度化している傾向もあり、出来る作業が少なくなっている中で、利用者さんかどんな作業ができるか見つけることです。

■効果は出ていますか？

参加している利用者さんの作業能力に応じて、ある人には「道具を使ってこれをやってみよう」とある人には「倉庫から道具を持ってきてね」と言います。そのうち「何が必要？」と聞かかけると道具を探せるようになります。また利用者さんの中でリーダーシップを取る人が必ず出てきます。学生がボランティアで入ることで良い刺激になります。同じ作業をしていて「学生ができてなぜ自分ができないんだろう」と自己嫌悪が出てきたり、「学生は就職をしていく。自分もステップアップしなくてはいけないのかな」と思う人も出てきます。

ガーデニングプログラム

千葉大学の先生、学生と一緒にグループワーク。目的は作業を通して集中力・持続力の向上。協働作業を通して、対人スキルやコミュニケーションスキルの向上。自分で選択した作業を行い、作業に対する責任感の向上を目指します。

千葉大学環境健康フィールド科学センター
野田勝二先生

野田先生にお話を伺いました！



▲利用者の中には農業方面に就職した方も

生活訓練 通称【スキルコース】

日常生活は問題なく送れるが高次脳機能障害の影響で仕事が入りずらい、人との関係づくりが苦手な方に対して自身の障害を理解し社会生活力が向上するよう社会リハビリテーションを提供します。

生活訓練は利用者全員が高次脳機能障害の方であるため、高次脳機能障害の特性に配慮した方法やプログラムでの支援を行い、利用者の「障害の気づき」と「社会生活力」を高めています。

具体的には「高次脳生活パス」をはじめとする情報の「見える化」を行い、利用者が理解しやすく目標がぶれないための工夫をしながら、「グループワーク」での対人交流や検討、「作業活動」での学習や体験などを行っています。プログラムのひとつには記憶障害の利用者のためのメモリーグループがほぼ毎日あり、メモリーノート使用の定着を図っています。



市川生活支援員

わかりやすく
見えるようにしています
グループワークや作業を通して、利用者の目標（ゴール）を確認し、スモールステップを一緒に考えてわかりやすく見えるようにしています。

就労移行支援 通称【職リハ】

身体障害のある方や高次脳機能障害と診断された方が一般企業や特別子会社等への就職や復職等に向けて、評価・訓練、事業所内や企業における実習・職場探し、復職の場合は復帰条件の調整などの支援を行います。更に新規就労・復職後の就労定着のための支援も行っています。更生園内の訓練は模擬職場であり、その中で「報・連・相」をはじめとするコミュニケーション力を高めています。また、利用者が高次脳機能障害をカバーするための代償手段の活用（手順書の作成・活用、業務日誌記入、メモリーノート活用、確認行動の徹底、易疲労への対応等）を身につけるトレーニングを行い、グループワークでの振り返りや対人交流も行っています。



リハビリ活動の時間は、集団活動の中でいつでも、誰の人も見ることが出来ます。

吉田サービス管理責任者
就労移行支援

利用者は退園後こんなことをしています

Aさんの場合

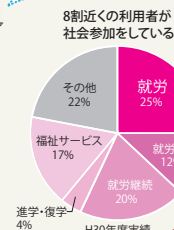
26才の時、自動車事故で頭部外傷。
「仕事が入りずらい」更生園入所。記憶、注意力、感情コントロール（イライラ等）の高次脳機能障害があり、精神福祉手帳2級。



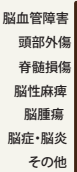
Aさん29才

目標は「就職！一人暮らし」

入所しながら生活訓練を1年5か月。メモリーノートを使いこなせるようになった。イライラの原因がわかり対処が可能になった。職場実習に行き働くための構えが身に着いた。その後、就労移行支援に自宅から1年通所。新規就労し、単身生活。現在、就労継続中。



こんな疾患を持った方が利用しています



機能訓練事業の利用者は身体障害の他に、高次脳機能障害を有する方も多くみられます。本人は身体機能面に目を奪われがちですが、高次脳機能障害面を理解した支援が必要となります。身体機能訓練はもちろん、社会参加のために、身体障害があっても身の回りのことを自力で出来る力を高めたり、地域で安全に過ごし、行きたい場所に行ける力を身につけられるように理学療法士や作業療法士が「外出訓練」を積極的に行っています。



▲スキルコースの心理グループ



誰でも使える支援ツール

生活パスシート

高次脳機能障害を持つ方の多くは、目標を見失ってしまいがち、今やっていることがわからなくなる特徴が見られます。そこで当事者が自分で決めた目標を達成するまでのプロセス(必要な短期目標)を段階的に表にした自己チェックシートを作りました。



関係先・千葉リハ更生園まで

関谷サービス管理責任者
自立訓練

▼職リハの図書室実習



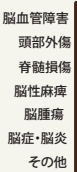
▲職リハの模擬職場の様子

本人とゴールを共有していること

どういう働き方をしたいか、ゴールを共有し、同じ方向を向いて支援しています。利用者さんに気づいてもらうため、きちんと伝えるためにツール(文章・動画などを工夫しています。

入園相談、見学は電話相談で！

こんな疾患を持った方が利用しています



更生園を利用したい方、ご相談は電話にて
更生園の高野コーディネーターがご案内いたします。
問合せ:043-291-1831(代)
千葉リハ代表電話から「更生園」に繋がります。

高次脳機能障害支援センターの近況や支援活動などを報告します。

2019.8/21、10/16

2019

高次脳機能障害 地域支援者向け連続講座を開催しました！

千葉県内の地域支援者を対象とした『高次脳機能障害地域支援者向け連続講座 2019』は好評で第2回、第3回と定員を超えた参加者が集まりました。

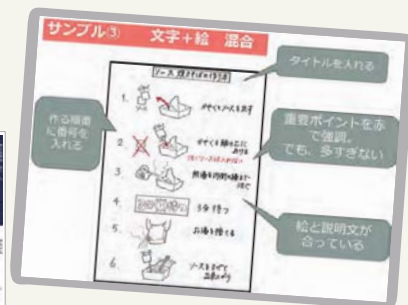
5回シリーズの第2回『注意障害・神経疲労(脳疲労)』は支援センターの理学療法士の揚戸が講師を務めました。内容は、高次脳機能障害の行政的定義、神経疲労・注意障害の特徴と対応について。ミニ体験では、手順書作成を行いました。実際に手順書を作っていた様子、見本例(文字のみ、絵のみ、混合)を示してポイントを解説しました。

第3回『記憶障害・遂行機能障害』は支援センターの作業療法士の前島が講師を務め、記憶障害・遂行機能障害の特徴と対応についてお話させて頂きました。ミニ体験では支援センターが作成した「こうじのうサポートチェックリスト」を実際にチェックしていただき、高次脳機能障害者の生活実態のアセスメントツールのひとつとして紹介しました。参加人数は2回、3回とも90名と定員を越え、回を重ねるたび、地域支援者様に必要とされている講座と感じられました。連続講座はあと2回開催されます。有意義な講座となる様、スタッフ一同努力して行きたいと思っております。

- 第1回 7/10(水)『高次脳機能障害概論』
 - 第2回 8/21(水)『各論1：注意障害・神経疲労(脳疲労)』
 - 第3回 10/16(水)『各論2：記憶障害・遂行機能障害』
 - 第4回 12/20(金)『各論3：社会的行動障害』
 - 第5回 2/19(水)『各論4：高次脳機能障害と就労』
- *詳しくはホームページをご確認下さい。



▼10/16 第3回連続講座にて(千葉リハ大ホール)



▲第2回ミニ体験後に配った見本例

2019.9.13

第2回高次脳機能障害生活版ジョブコーチ支援研修会を開催！

昨年に引き続き、高次脳機能障害者の支援に携わる地域支援者を対象とした研修会を開催しました。今年是对象人数、対象地域を拡大しましたが、締切前に募集人数を超えた申し込みがあり、改めてニーズの高さを実感しました。当日は『障害特性と対応』『高次脳機能障害におけるヘルパー支援』の講義と、『支援の実践』のDVDの視聴、グループワークを行い、活発な意見交換が交わされました。アンケートでは9割以上が「役にたった」と回答、研修会継続の必要性を感じました。以下、感想の中から抜粋したものを掲載します。「高次脳機能障害へのアプローチ方法を詳しく学ぶことが出来、大変良いスキルを得ることが出来た」「考え方、問いかけの仕方勉強になった」「自分の行う支援を見直す良い機会になった」「事例をたくさん出して下さりわかりやすかった」

生活版ジョブコーチ支援とは？

高次脳機能障害者が自立生活をしていくために必要な知識や技術を実際の生活場面で訓練し援助する訪問型支援



▲9/13 講演の様子 千葉リハ大ホール

参加者職種
ケアマネ71%、訪問介護士3%、看護師5%、その他21%



高次脳機能障害支援センターの近況や支援活動などを報告します。

2019.9.18

第3回家族のつどいを開催しました！



今村公治先生

成年後見、高次脳機能障害のトラブル対応

よつば総合法律事務所 千葉事務所の所長である弁護士今村公治先生に、成年後見とトラブル対応についてお話をいただきました。よつば総合法律事務所は、ちば高次脳機能障害者と家族の会の賛助会員ということで家族会の方からご紹介いただきました。交通事故で弁護士が関わることのメリットや実際のトラブル解決例、後見制度支援信託を含めて詳しいところまでご説明いただきました。先生が実際に後見人になったご経験があるため、参加されたご家族からの質問にもわかりやすく具体的に答えただけでした。ご家族からも今後役立てられると好評でした。

成年後見制度とは？

「本人の判断能力が精神上の障害により不十分な場合に、本人を法的に保護して支えるための制度。家庭裁判所が本人のために後見人を選び、その後見人が本人のために活動する制度。」

後見人の業務は①財産管理(1年に1度ほど裁判所に本人の年間収支などを報告)②身上監護(施設、介護、住居などの契約など)です。利用者数は年々増えており、最近では、法人後見や市民後見のように後見人の範囲も広がってきています。

2019.10.7-8

広島市立リハビリテーション病院の方が見学に来ました！

見学の感想を頂きました。ありがとうございます。



▲10/7中庭にて記念撮影(前方右から3番目と4番目)

「千葉県千葉リハビリテーションセンターを見学させていただいて、広島市立リハビリテーション病院 作業療法士 松原麻子

2日間にわたり、作業療法のグループ訓練、更生園の職業リハのグループワーク、心理グループと家族のための高次脳講座、高次脳機能障害支援センターの働くためのグループについてご説明いただき、実際にグループ活動にも参加させていただきました。リハビリテーションはオーダーメイドの支援が必要な分野ですが、改めてその必要性が分かりました。また、就労や地域生活に対するご本人の「気づき」の重要性を再認識し、その支援を継続することの必要性を学びました。グループ訓練の影響、効果と実際の手法を教えてください、早速自分の仕事にいかしていこうと思います。小倉先生をはじめ、ご対応くださった職員の皆さま、見学を快く受け入れてくださった方々、本当に有難うございました。